

プロ野球史上に残る名場面の主役が江夏豊さんなら、名脇役は衣笠祥雄さんだろう。広島と近鉄が覇を競った1979年日本シリーズの最終第7戦でのことである▼1点リードで9回裏無死満塁。マウンド上の江夏さんは負けを覚悟していた。

そこへ一塁から歩み寄り、声を掛けられたのが衣笠さんだった。値千金の一言だった▼故山際淳司さんの「江夏の21球」にある秘話である。衣笠さんはこう言ったのだった。「オレもお前と同じ気持ちだ。ベンチやブルペンのことなんて気にするな」▼実は江夏さんは、戦況に動揺していたというより自軍の采配に傷ついていた。投手交代の動きを見せていたからだ。絶大な

越山若水

2018.4.25

実績を誇る江夏さんの屈辱を衣笠さんは理解していた▼2215試合連続出場「鉄人」として国民栄誉賞も受けた名選手である。きらめくスターを脇役扱いするのは無礼かと思いつつも、訃報を聞いて真っ先にこの話が浮かんだ▼現役時代の豪打を記憶してい

る。古武士のような風貌に鋼のごとき体つきをして、火の出る打球を飛ばした。それでも印象深いのは、優しい笑顔と穏やかな人柄の方だ▼たぶん誰もが思ったことだろう。鉄人にして71歳とは早すぎる、と。相手によつては嫌みに取られかねないけれど、衣笠さんなら「いやあ面白い」と笑い返してくれそつだ。闘病の苦勞や無念さを押し隠して。